



## ヒトメタニューモウイルス感染症



気管支炎や肺炎などの呼吸器感染症を起こすウイルスです。小児の呼吸器感染症の5～10%、大人の呼吸器感染症の2～4%はヒトメタニューモウイルス（hMPV）感染症と言われています。1歳から3歳の小児に流行し、流行時期は3月～6月です。症状は咳（1週間程度持続）、発熱（4～5日程度の持続）、鼻汁、ゼイゼイ、ヒューヒューなどの喘鳴、ひどくなれば呼吸困難をきたします。生後6ヶ月から感染が始まり、遅くとも10歳までには初感染します。何度か繰り返し感染しますが、年齢が上がるにつれて症状が軽くなります。診断方法は鼻を綿棒でぬぐう迅速検査があり、5～15分で判定します。

### ➤ 感染経路

咳やくしゃみを吸い込むことによる飛沫（ひまつ）感染、手指を介した接触感染です。

### ➤ 潜伏期間

4～6日間

### ➤ 治療

対症療法が主体です。発熱に対しては冷却とともに、アセトアミノフェン（アンヒバ、カロナール）などの解熱薬を使用します。喘鳴を伴う呼吸器症状に対しては、咳止め、痰切りの薬、気管支拡張薬を使用します。脱水気味になると、痰が粘って吐き出すのが困難になるので、水分の補給に努めます。発熱が5日以上続くときは細菌感染の合併が疑われるので、抗生物質を使用する場合があります。呼吸障害が強く、経口摂取が低下すれば入院することもあります。

### ➤ 家庭で注意すること

飛沫感染、接触感染でうつるので、手洗い、うがいをしましょう。また感染したら周囲の人にうつさないようにマスクをしましょう。1週間程度で症状は改善します。ウイルスの排泄期間は1～2週間なので、最低1週間は登園、登校は控えてください。